

平成21年度 国立江田島青少年交流の家企画事業

## フェニックススピリットキャンプ実施報告書

- 【趣 旨】 非行など社会的不適応から立ち直ろうとする青少年に、集団宿泊体験や奉仕活動・スポーツ活動等を通じて、達成感や自己肯定感を体得させながら、次のステップに踏み出すきっかけづくりとする。
- 【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立江田島青少年交流の家、NPO法人青少年サポートクラブ、広島西警察署管内少年補導助手員連絡協議会
- 【後 援】 広島地方検察庁、広島西警察署
- 【期 日】 平成21年9月5日（土）～6日（日）
- 【会 場】 国立江田島青少年交流の家
- 【参加者数】 43名（青少年13名 支援者・協力者30名）
- 【主な内容】 カヌー体験・講義・意見交換会・トイレ掃除・フットサル交流
- 【講 師】 広島地方検察庁総務部長 河合 文江  
元広島県警本部青少年育成課長 広島掃除に学ぶ会 竹内 光弘  
国立江田島青少年交流の家 職 員

### 【企画・運営のポイント】

- (1) 参加者の緊張をほぐすために、最初にかヌー体験・フットサル練習の選択プログラムを取り入れた。
- (2) 連携する支援団体を広げたり、交流の家の利用団体との交流を実施したりした。
- (3) 便器をみがくことを通して豊かな感性を育むため、広島掃除に学ぶ会から講師を招いた。
- (4) 近年、若者の薬物乱用が増加していることを踏まえ、薬物についての講義を取り入れた。

### 【活動の実際】



薬物乱用防止の講義をする広島地方検察庁の講師



素手でトイレ掃除をする参加者



フットサルの試合の様子



閉講式で挨拶をする青少年サポートクラブ代表

### 【成果と課題】

#### (成 果)

- (1) 複数の立ち直り支援団体が参加し、活発に交流が図られ、今後の交流のきっかけとなった。
- (2) 中国の研修団体が一緒にフットサルで交流し、立ち直り支援団体同士の連携だけでなく、施設利用団体との国際交流もすることができた。
- (3) トイレ掃除を通して、参加者の中から「トイレがきれいになると心もきれいになった気がする」という感想があり、便器をみがくことを通して感性を高めたり、感謝・感動・謙虚の心を育み、自立への意欲を高めることができた。
- (4) 参加者が事業終了後にブログで事業内容を肯定的に紹介し、その後所属する団体が「薬物の危険性等について」再度学習を行うなど、本事業の取り組みが支援団体独自の取組に発展した。
- (5) 事業に参加したことで変容が見られた。(独自のアンケート結果より)(肯定的な割合)
  - ・わがままを言わない 39%→54%
  - ・思いやりが大切である 77%→92%